

仕様変更のお知らせ

IC-9700/IC-9700S Version 1.30

仕様変更に伴い、下記のように本製品の機能が変更になりました。

追加	スコープ機能の SCROLLモード	1	変更	キーボード入力操作の改善	5
追加	PRESET画面	2	変更	TS(周波数ステップ)の初期値(CWモード時)	5
追加	フロントキーカスタマイズ機能	3	変更	クイックメニュー (ターミナルモード/アクセスポイントモード)	5
追加	マイクキーカスタマイズ機能	4	変更	データモード受信時のトーン設定	5
変更	緯度/経度の表示形式	5	変更	CI-Vコマンド(補足説明書)	6
追加	GPSアイコンタッチ時の機能	5			
追加	マルチファンクションダイヤルの機能	5			

追加 スコープ機能の SCROLLモード

スコープ機能に SCROLLモードが追加になりました。

周波数スパン(表示範囲)を一時的に固定して、スパン内の信号を表示します。

受信周波数が画面外に移動すると、周波数スパン(表示範囲)の上限/下限周波数がスクロールして表示周波数範囲を切り替えます。SCROLLモードは、CENTERモードから表示する SCROLL-C と、FIXモードから表示する SCROLL-F があります。

※スコープ機能の [SPAN]、または [EDGE] を操作したときなどに、設定値が約1秒大きく表示されるようになりました。

1. SPECTRUM SCOPE画面を表示させます。
[MENU] >> [SCOPE]
2. [CENT/FIX]を長く(約1秒)タッチして、SCROLLモード表示に切り替えます。

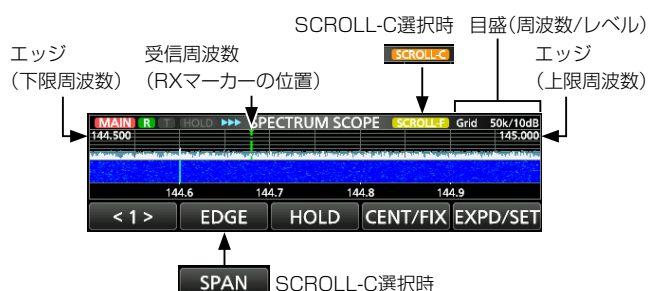
CENTERモード→SCROLLモードの場合

CENTERモードから切り替えると、SCROLL-Cが表示されます。
※CENTERモードと同様に、[SPAN]の操作ができます。

FIXモード→SCROLLモードの場合

FIXモードから切り替えると、SCROLL-Fが表示されます。
※FIXモードと同様に、[EDGE]の操作ができます。

3. [CENT/FIX]を短くタッチすると、操作前のモードに戻ります。
※SCROLLモードで設定した周波数スパンのまま表示されます。
※SCROLL-Fモードでエッジを切り替えたあと、FIXモードに戻ったときは、SCROLL-Fモードで設定したエッジのまま表示されます。
また、現在の周波数がスコープの表示範囲外のときは、画面上部の左右に「L」(周波数が低い)、または「H」(高い)が表示されます。



◇スコープ設定の項目名の変更

スコープ設定画面の設定項目名が、「マーカー位置(FIX モード)」から「マーカー位置(FIX モード / スクロールモード)」に変更されました。

◇スコープ設定のFIXエッジのNo.4追加

スコープ設定画面のFIX エッジが、バンドごとに3組までありましたが、No.4 が追加され、4組になりました。

◇スコープのリファレンスレベルをバンドごとに記憶

SPECTRUM SCOPE画面で調整したリファレンスレベルをバンドごとに記憶できるようになりました。

追加 PRESET画面

メニュー画面にPRESET画面が追加されました。

MENU » **PRESET**

FT8などのデータモード運用時に使用できるプリセットメモリーを用意しました。

これにより、運用状態に応じて、すばやく設定を変更できます。

※プリセットメモリーは、5件まで登録できます。

※以下の項目をプリセットできます。

プリセットネーム	変調入力(DATA OFF)
モード	COMP
フィルター	SSB TBW
フィルターBW(144M)	SSB 送信帯域幅
フィルターBW(430M)	USB SEND
フィルターBW(1200M)	USB キーイング(CW)
フィルタータイプ	USB キーイング(RTTY)
USB 出力選択	USB接続時入力禁止時間
USB AF出力レベル	CI-Vボーレート
USB AFスケルチ	CI-Vアドレス
USB IF出力レベル	CI-Vトランシーブ
USB変調入力レベル	CI-V USBポート
変調入力(DATA ON)	CI-V USBボーレート
SSB-D 送信帯域幅	CI-V USBエコーバック

◇プリセットメモリーの読み込み

※プリセットメモリーの読み込み対象は、MAINバンドになります。
SUBバンド選択時でも、MAINバンドに読み込みます。

1. **MENU**を押します。
2. 画面下の[②]をタッチして、画面を切り替えます。
3. [PRESET]を短くタッチします。



4. 設定するプリセットをタッチします。
※長く(約1秒)タッチすると、クイックメニューが表示され、プリセット内容を編集できます。
5. 「はい」をタッチします。
※選択したプリセットが反映され、プリセット項目に「使用中」が表示されます。
反映後に無線機の設定を変更するなどプリセットメモリーの内容と一致しなくなったときは、「使用中」表示が消えます。
※「解除」をタッチすると、プリセットメモリーを読み込む前の設定に戻ります。

ご注意

下記の操作時、「モード」にチェックマークが入っているプリセットは、読み込みができません。

◎下記の操作を解除してから、読み込みをしてください。

- ブランクのメモリーチャンネル選択時
- DVモード送信時
- DR機能表示中
- DVゲートウェイ機能動作中
- サテライトモード時

◎DDモードで読み込むときは、1200MHz帯を選択してください。

◇プリセットメモリーの編集

※「使用中」が表示されているときは、編集できません。

「解除」をタッチしてプリセットメモリーを読み込む前の設定に戻すと、プリセットメモリーを編集できます。

1. 編集するプリセットを長く(約1秒)タッチします。
 - クイックメニューが表示されます。
2. 「プリセットメモリーを編集」をタッチします。
 - プリセットメモリー編集画面が表示されます。
 ※「プリセットメモリーに書き込み」をタッチすると、現在の設定がメモリーに書き込まれた状態で、プリセットメモリー編集画面が表示されます。
3. プリセット登録をする設定項目のチェックボックスをタッチします。
 - 「✓」(チェックマーク)が表示されます。
4. 編集する項目の項目名をタッチし、表示された画面で設定値を選択します。
※プリセットネームは、全角で8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)で入力します。
5. 手順3、4を繰り返してプリセット内容を設定します。
6. 「書き込み」をタッチします。
7. 「はい」をタッチします。

ご参考

FT8などで使用するソフトウェアが本製品に対応していない場合は、ソフトウェアに対応している弊社製無線機のCI-Vアドレスに変更してください。

追加 フロントキーカスタマイズ機能

前面パネルの **VOX/BK-IN**、**AUTOTUNE** / **AFC**、**TONE/RX>CS** のキーを別の機能キーとして割り当てできるようになりました。

MENU >> **SET > 機能設定 > フロントキーカスタマイズ**

● : 初期設定 ○ : 割り当て可 × : 割り当て不可

機能	動作内容	[VOX/BK-IN]	[AUTOTUNE/AFC]	[TONE/RX>CS]
VOX/BK-IN	短押し：VOX機能のON/OFF 長押し：設定メニューが表示される ◎CWモード 短押し：押すごとに、「BKIN」(セミブレイクイン)→「F-BKIN」(フルブレイクイン)→OFF(消灯)の順に切り替わる 長押し：設定メニューが表示される	●	×	×
AUTOTUNE/AFC	◎CWモード 押すごとに、相手の送信周波数にゼロインするオートチューニング機能が動作 ◎FM/DVモード 押すごとに、AFC(自動周波数調整)機能のON/OFF	×	●	○
AUTOTUNE/AFC/RX>CS	◎CWモード 押すごとに、相手の送信周波数にゼロインするオートチューニング機能が動作 ◎FM/DV/DDモード 短押し(FM/DVモード)：AFC(自動周波数調整)機能のON/OFF 長押し(DV/DDモード)：RX>CS画面が表示される	×	○	×
TONE/RX>CS	◎FMモード 短押し：トーン設定画面が表示される 長押し：TONE FREQUENCY画面が表示される ◎DV/DDモード 短押し：RX>CS画面が表示される 長押し：ワンタッチ応答	×	○	●
CD	受信履歴画面が表示される	○	○	×
CD/RX>CS	◎すべてのモード 短押し：受信履歴画面が表示される ◎DV/DDモード 長押し：RX>CS画面が表示される	×	○	○
PRESET	プリセット画面が表示される	○	○	×
PRESET/RX>CS	◎すべてのモード 短押し：プリセット画面が表示される ◎DV/DDモード 長押し：RX>CS画面が表示される	×	○	○
ホームCH	表示されているモード(VFO/MEMO)、またはDR画面に登録したホームチャンネルに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、コールチャンネルモードでは、エラービープが鳴ります。	○	○	×
ホームCH/RX>CS	◎すべてのモード 短押し：表示されているモード(VFO/MEMO)、またはDR画面に登録したホームチャンネルに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、コールチャンネルモードでは移動しません。 ◎DV/DDモード 長押し：RX>CS画面が表示される	×	○	○
一時スキップ	スキャン中に短く押しすと、スキャンの対象から一時的に除外する(スキップ)ようにメモリーに登録する	○	○	×
一時スキップ/RX>CS	◎すべてのモード 短押し：スキャン中に短く押しすと、スキャンの対象から一時的に除外する(スキップ)ようにメモリーに登録する ◎DV/DDモード 長押し：RX>CS画面が表示される	×	○	○
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 1	◎SSB/AM/FM/DVモード 短押し：送信用ボイスメモリー番号(T1～T4)に録音された自局の音声を一回だけ送信する 長押し：繰り返し送信する ※SDカードを本製品に取り付けている必要があります。 ※DR画面でも使用できます。			
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 2	◎CWモード 短押し：KEYERメモリー番号(M1～M4)に登録されたKEYERメモリーを一回だけ送信する 長押し：繰り返し送信する	○	○	×
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 3	◎RTTYモード 短押し：RTTYメモリー番号(RT1～RT4)に登録されたRTTYメモリーを一回だけ送信する			
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 4	ご注意 送信用ボイスメモリー、KEYERメモリー、RTTYメモリーが登録されていない場合は、動作しません。			

追加 マイクキーカスタマイズ機能

ハンドマイクロホンの[UP]/[DN]キーを別の機能キーとして割り当てできるようになりました。

[MENU] ≫ **SET > 機能設定 > マイクキーカスタマイズ**

[UP] (初期設定：UP(VFO：kHz))

[DN] (初期設定：DOWN(VFO：kHz))

機能	動作内容
--	割り当てなし
UP	<p>◎VFOモード 周波数アップ(50Hz刻み) ※TS(周波数ステップ)機能がONのとき、設定されたステップで変化します。</p> <p>◎メモリーモード/DR画面 チャンネルアップ</p>
DOWN	<p>◎VFOモード 周波数ダウン(50Hz刻み) ※TS(周波数ステップ)機能がONのとき、設定されたステップで変化します。</p> <p>◎メモリーモード/DR画面 チャンネルダウン</p>
UP (VFO：kHz)	<p>◎VFOモード 周波数アップ(1kHz刻み) ※TS(周波数ステップ)機能がONのとき、周波数は設定されたステップで変化します。</p> <p>◎メモリーモード/DR画面 チャンネルアップ</p>
DOWN (VFO：kHz)	<p>◎VFOモード 周波数ダウン(1kHz刻み) ※TS(周波数ステップ)機能がONのとき、周波数は設定されたステップで変化します。</p> <p>◎メモリーモード/DR画面 チャンネルダウン</p>
XFC	押ししているあいだ、XFC機能を有効にする
CALL	コールチャンネルモードに切り替える
VFO/MEMO	短押し：VFOモードとメモリーモードを切り替える 長押し：メモリーチャンネルの内容をVFOモードに転送する
DR	DR画面に切り替える
FRONT/TO (DR)	DR画面時、押すごとに[FROM]と[TO]の選択状態を切り替える
ホームCH	表示されているモード(VFO/MEMO)、またはDR画面に登録したホームチャンネルに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、コールチャンネルモードでは、エラービープが鳴ります。
BAND UP	<p>◎VFOモード、メモリーモード 短押し：運用バンドをアップする 長押し：バンドスタッキングレジスターの記憶内容に切り替える</p>
BAND DOWN	<p>◎VFOモード、メモリーモード 短押し：運用バンドをダウンする 長押し：バンドスタッキングレジスターの記憶内容に切り替える</p>
SCAN	短押し：前回と同じスキャンを開始する 短押し(スキャン中)：スキャンを停止する 長押し：スキャン選択画面を表示する
一時スキップ	スキャン中に短く押すと、スキャンの対象から一時的に除外する(スキップ)ようにメモリーに登録する
SPEECH	<p>◎VFO/メモリー/コールチャンネルモード Sメーターレベル*、周波数、運用モードをアナウンスする</p> <p>◎DR画面 Sメーターレベル*、コールサインをアナウンスする ★「Sレベルスピーチ」が「OFF」のときは、アナウンスしません。 ※DR画面でシンプレックスを選択している場合は、周波数をアナウンスします。 ※DR画面でFMLレピータを選択している場合は、コールサインとモード、または周波数とモードをアナウンスします。</p>

機能	動作内容
MAIN/DUAL	短押し：操作対象バンド(MAIN/SUB)を切り替える 長押し：デュアルワッチ機能のON/OFFを切り替える
MODE	短押し：運用モード(電波型式)を順番に切り替える 長押し：USBとLSB、CWとCW-R、RTTYとRTTY-Rを切り替える
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 1	<p>◎SSB/AM/FM/DVモード 短押し：送信用ボイスメモリー番号(T1～T4)に登録された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：繰り返し送信する ※SDカードを本製品に取り付けている必要があります。 ※DR画面でも使用できます。</p>
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 2	<p>◎CWモード 短押し：KEYERメモリー番号(M1～M4)に登録されたKEYERメモリーを1回だけ送信する 長押し：繰り返し送信する</p>
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 3	<p>◎RTTYモード 短押し：RTTYメモリー番号(RT1～RT4)に登録されたRTTYメモリーを1回だけ送信する</p>
ボイス/キーヤー/ RTTYメモリー 4	<p>◎注意 送信用ボイスメモリー、KEYERメモリー、RTTYメモリーが登録されていない場合は、動作しません。</p>
RX>CS	<p>◎DV/DDモード 短押し：RX>CS画面を表示する 長押し：ワンタッチ応答キーとして、聞こえている局のコールサインを宛先に設定する</p>
TS	短押し：TS(周波数ステップ)機能のON/OFFを切り替える 長押し：TS画面を表示する
MPAD	短押し：メモパッドを最新の登録内容から順番に呼び出す 長押し：運用中の状態をメモパッドへ書き込む
SPLIT	短押し：スプリット運用のON/OFFを切り替える 長押し：クイックスプリット機能が動作する
A/B	<p>◎VFOモード 短押し：VFO AとVFO Bが切り替わる 長押し：表示されていないVFOの内容が、表示中のVFOの内容と同じになる</p>

変更 緯度/経度の表示形式

緯度/経度の表示形式で、「ddd.dddd°」が追加になりました。

MENU >> **SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度**

緯度/経度 (初期設定: ddd° mm'ss")

画面に表示する位置情報の表示形式を設定します。

- ddd° mm.mm' : 位置情報を「度/分(小数点)」で表示する
- ddd° mm' ss" : 位置情報を「度/分/秒」で表示する
- ddd.dddd° : 位置情報を「度(小数点)」で表示する

◇ GPSアラームのアラームエリア(グループ)表示形式追加

緯度/経度の「ddd.dddd°」選択肢追加に伴い、GPSアラームのアラームエリア(グループ)設定も、「ddd.dddd°」での設定が追加になりました。

MENU >> **GPS > GPSアラーム > アラームエリア(グループ)**

ddd.dddd°表示形式の場合

- 選択肢: 0.0014° ~ 0.9999° (度形式での初期設定: 0.0042°)

追加 GPSアイコンタッチ時の機能

GPSアイコンをタッチするとGPS情報画面を表示されるようになりました。

追加 マルチファンクションダイヤルの機能

- マルチファンクションダイヤルに割り当てられた機能は、次の操作で解除できます。
 - ◎マルチファンクションダイヤル機能表示をタッチします。
 - ◎**(MULTI)**を1秒間押しつづけます。
- 「kHz」を割り当てて **(MULTI)**を早く操作すると、加速により自動的にチューニングダイヤルの速度が上がります。

変更 キーボード入力操作の改善

フルキーボード画面で英字/数字を切り替えた際、大文字指定を維持するように改善しました。

変更 TS(周波数ステップ)の初期値(CWモード時)

CWモード時、TS(周波数ステップ)の初期値は、1kHzから100Hzに変更されました。

変更 クイックメニュー(ターミナルモード/アクセスポイントモード)

ターミナルモード/アクセスポイントモードのクイックメニューに「《通常モードに戻る》」が追加されました。

クイックメニューの「《通常モードに戻る》」をタッチすると、ターミナルモード/アクセスポイントモードを解除できます。

変更 データモード受信時のトーン設定

運用モード(電波型式)の設定で[DATA]をタッチしてデータモードを選択すると、下記受信トーンコントロールの設定値に関わらず、初期値として動作します。

MENU >> **SET > トーンコントロール/送信帯域幅 > 受信**

- 受信HPF/LPF (初期設定: - - - - -)
- 受信音質(低音) (初期設定: 0)
- 受信音質(高音) (初期設定: 0)

変更 CI-Vコマンド(補足説明書)

仕様変更に伴い、CI-Vコマンドが追加/変更されました。

※[*]マークの項目は読み込み/書き込みができます。

コマンド	サブ	データ	動作
1A*	05	0170	00~02 セット — ディスプレイ設定 — 表示単位 — 緯度/経度の設定 ※00=ddd° mm.mm', 01=ddd° mm'ss", 02=ddd.dddd°
		0190	00/01 スコープ設定 — マーカー位置(FIXモード/スクロールモード)の設定 ※00=フィルターセンター、01=キャリアポイント
	0343	右表参照	セット — 機能設定 — フロントキーカスタマイズ [VOX/BK-IN]キーの設定
	0344	右表参照	セット — 機能設定 — フロントキーカスタマイズ [AUTOTUNE/AFC]キーの設定
	0345	右表参照	セット — 機能設定 — フロントキーカスタマイズ [TONE/RX>CS]キーの設定
	0346	P.7参照	セット — 機能設定 — マイクキーカスタマイズ [UP]キーの設定
	0347	P.7参照	セット — 機能設定 — マイクキーカスタマイズ [DN]キーの設定
	0348	P.7参照	FIX エッジ — 144M — No.4 の設定
	0349	P.7参照	FIX エッジ — 430M — No.4 の設定
	0350	P.7参照	FIX エッジ — 1200M — No.4 の設定
27*	00	P.8参照	スペクトラムスコープの出力波形データ出力 ※スペクトラムスコープ動作の設定(コマンド: 27 10)と、スペクトラムスコープの波形データ出力の設定(コマンド: 27 11)がONのときに転送します。
	14	P.8参照	スペクトラムスコープのCENTER(センター)モード、FIX(固定)モード、SCROLL-Cモード、SCROLL-Fモードの設定
	15	P.8参照	スペクトラムスコープのSPANの設定 ※CENTER(センター)モード、SCROLL-Cモード時
	16	P.8参照	スコープ設定 — FIXエッジの設定 ※FIX(固定)モード時、SCROLL-Fモード時
	20	00/01	スコープ設定 — マーカー位置(FIXモード/スクロールモード)の設定 ※00=フィルターセンター、01=キャリアポイント

◇コマンドフォーマットの追加/変更

[VOX/BK-IN]の設定

コマンド: 1A 05 0343

データ	機能
00	VOX/BK-IN
01	CD
02	PRESET
03	ホームCH
04	一時スキップ
05	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 1
06	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 2
07	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 3
08	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 4

[AUTOTUNE/AFC]の設定

コマンド: 1A 05 0344

データ	機能
00	AUTOTUNE/AFC
01	AUTOTUNE/AFC/RX>CS
02	TONE/RX>CS
03	CD
04	CD/RX>CS
05	PRESET
06	PRESET/RX>CS
07	ホームCH
08	ホームCH/RX>CS
09	一時スキップ
10	一時スキップ/RX>CS
11	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 1
12	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 2
13	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 3
14	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 4

[TONE/RX>CS]の設定

コマンド: 1A 05 0345

データ	機能
00	AUTOTUNE/AFC
01	TONE/RX>CS
02	CD/RX>CS
03	PRESET/RX>CS
04	ホームCH/RX>CS
05	一時スキップ/RX>CS

変更 CI-Vコマンド(補足説明書)

◇コマンドフォーマットの追加/変更

マイクキーカスタマイズの設定

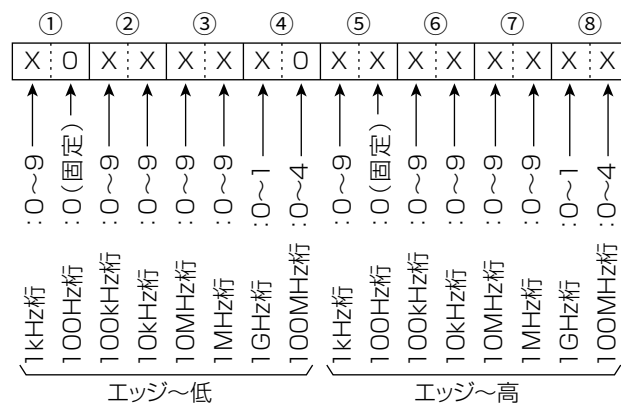
コマンド: 1A 05 0346、0347

データ	機能
00	割り当てなし
01	UP
02	DOWN
03	UP (VFO: kHz)
04	DOWN (VFO: kHz)
05	XFC
06	CALL
07	VFO/MEMO
08	DR
09	FROM/TO (DR)
10	ホームCH
11	BAND UP
12	BAND DOWN
13	SCAN
14	一時スキップ
15	SPEECH
16	MAIN/DUAL
17	MODE
18	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 1
19	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 2
20	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 3
21	ボイス/キーヤー/RTTYメモリー 4
22	(NG)
23	RX>CS
24	TS
25	MPAD
26	SPLIT
27	A/B

スコープ設定 > FIXエッジ周波数の設定

コマンド: 1A 05 0202 ~ 1A 05 0210

1A 05 0348 ~ 1A 05 0350



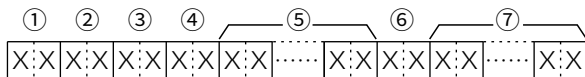
変更 CI-Vコマンド(補足説明書)

◇コマンドフォーマットの追加/変更

スペクトラムスコープの出力波形データ

コマンド: **27 00**

スペクトラムスコープの波形データを無線機から出力します。



- ① MAIN/SUBデータ: 00=MAIN、01=SUB
- ② 分割番号(NOW): 01~11
- ③ 分割番号(MAX): 01=LAN、11=USB
 - ◎[USB]ポートを使用する場合は、データを11分割して出力します。
 - ◎[LAN]ポートを使用する場合は、データが一括で出力されます。

※分割番号(NOW)とは、分割したうちの何番目かを指します。
 分割番号(MAX)とは、分割総数を指します。
 例) 11分割中の5分割目を送信する場合、分割番号(NOW)は5、
 分割番号(MAX)は11となります。

◎[USB]ポートから出力する場合は、分割番号(NOW)が1番目のデータには、波形データ(⑦)を乗せません。
 2番目以降のデータは、MAIN/SUBデータ(①)、分割番号(NOW)(②)、分割番号(MAX)(③)、波形データ(⑦)を乗せます。

- ④ 表示モード : 00=CENTERモード、
 01=FIXモード、
 02=SCROLL-Cモード、
 03=SCROLL-Fモード

⑤ 波形情報

表示モードによって波形情報が異なります。

◎CENTERモードの場合

: センター周波数+スパン

※運用周波数データ(補足説明書のP.17)

※スペクトラムスコープのSPANの設定(CENTERモード時)(②~⑥)(上図参照)

◎FIXモード、SCROLL-Cモード、SCROLL-Fモードの場合

: 下限周波数+上限周波数

※スペクトラムスコープのFIX(固定)エッジ周波数の設定(③~⑫)(補足説明書のP.29)

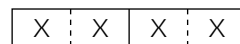
- ⑥ Out of Range : 00=レンジ範囲内、
 01=レンジ範囲外

※Out of Rangeの場合は、波形がないため、波形データ(⑦)は乗せません。

- ⑦ 波形データ : 0~160 =データ範囲、
 475 =データ長

スペクトラムスコープのCENTERモードとFIXモードの設定

コマンド: **27 14**

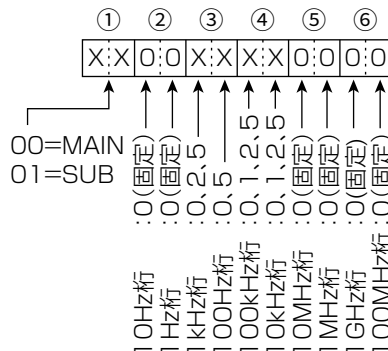


- 00=MAIN 00=CENTERモード
- 01=SUB 01=FIXモード
- 02=SCROLL-Cモード
- 03=SCROLL-Fモード

スペクトラムスコープのSPANの設定

(CENTERモード、SCROLL-Cモード時)

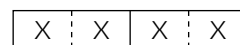
コマンド: **27 15**



SPAN (kHz)	
2500	2.5
5000	5
10000	10
25000	25
50000	50
100000	100
250000	250
500000	500

スコープ設定 — FIXエッジの設定(FIXモード時)

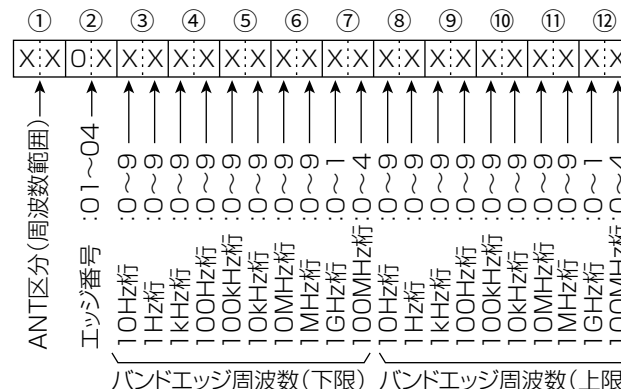
コマンド: **27 16**



- 00=MAIN 01=FIXエッジ No.1
- 01=SUB 02=FIXエッジ No.2
- 03=FIXエッジ No.3
- 04=FIXエッジ No.4

スペクトラムスコープのFIXエッジ周波数の設定

コマンド: **27 1E**



※100Hz桁未満の入力は、無視(エラーにしない)

① ANT区分(周波数範囲)

データ	ANT区分(周波数範囲)(MHz)
01	144.000~148.000
02	430.000~450.000
03	1240.000~1300.000

② エッジ番号: 01=1、02=2、03=3、04=4

仕様変更のお知らせ

IC-9700/IC-9700S Version 1.20

仕様変更に伴い、下記のように本製品の機能が変更になりました。

変更 セットモード

セットモードに下記の項目が追加されました。

MENU >> **SET > 外部端子**

PTT端子機能 (初期設定：PTT入力+SEND出力)

[MIC]コネクターのPTTスイッチ端子について設定します。

- PTT入力：送信中でもPTTスイッチ端子に送信状態を出力せずに、マイクロホンのPTT操作を検出する
- PTT入力+SEND出力
：送信中はPTTスイッチ端子に送信状態を出力するため、マイクロホンのPTT操作を検出しない

ご注意：

下記の場合は、「PTT入力」に設定してください。

- ◎ 画像の一括送信中に、マイクロホンの[PTT]スイッチを押して音声送信したいとき
- ◎ ボイス送信中に、マイクロホンの[PTT]スイッチを押してボイス送信を解除したいとき

MENU >> **SET > ディスプレイ設定**

受信画像インジケータ (初期設定：ON)

相手局から画像を受信したとき、ディスプレイにインジケータを表示するかしないかを設定します。

※「受信コールサイン表示」を「OFF」に設定しているときは、受信信号に画像が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しません。

- OFF：画像を受信しても、インジケータを表示しない
- ON：画像を受信すると、インジケータを表示する

MENU >> **SET > SDカード**

送受信画像表示

SDカードの[IC-9700] > [Picture]フォルダーに保存されている画像を表示します。

- ※ 画像を送信中は、画像を表示できません。
- ※ 表示できる画像は500枚までです。

変更 ファイル名の最大文字数

下記ファイルのファイル名の最大文字数が、半角 23 文字 (全角 11 文字と半角 1 文字)に変更になりました。

- icf ファイル(設定データ)
- CSV ファイル(インポート・エクスポートデータ)

追加 リフレクターの種類

リフレクター使用時、ダイレクト入力設定できるリフレクターに「DCS」と「XLX」が追加されました。

追加 画像伝送機能

画像伝送機能が追加されました。

RS-MS1A(弊社製 Android®専用アプリ)を使用せずに無線機から画像を送信したり、受信した画像を無線機で確認できたりします。

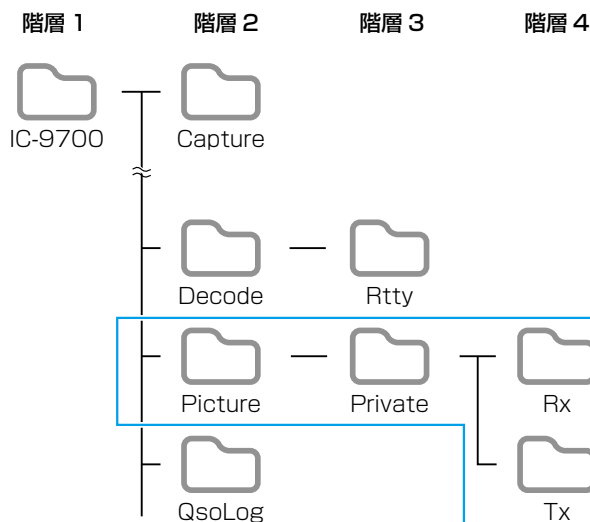
※ 画像伝送機能について詳しくは、弊社ホームページに掲載の「画像伝送機能について」をご覧ください。



追加 SDカードのフォルダー

SDカードを取り付けたときに作成されるフォルダーが追加されました。

※ すでに本製品でフォーマットされたSDカードをお使いの場合は、本製品を最新ファームにした状態でSDカードを取り付けると自動で追加されます。



◎ Picture フォルダ

画像伝送に使用する画像(jpg形式)を保存するフォルダーです。

◎ Private フォルダ

送受信画像履歴が保存されるフォルダーです。

◎ Rx フォルダ

受信画像履歴(dat形式)が保存されます。

※ パソコンでは、受信画像履歴を確認できません。

◎ Tx フォルダ

送信画像履歴(dat形式)が保存されます。

※ パソコンでは、送信画像履歴を確認できません。

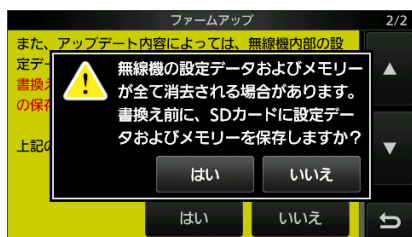
仕様変更のお知らせ

IC-9700/IC-9700S Version 1.13

仕様変更に伴い、下記のように本製品の機能が変更になりました。

変更 ファームアップ画面

本製品をファームアップするときに、設定データを保存するか確認する画面が追加になりました。



- [[はい]をタッチすると、SDカードに設定データとメモリーを保存後、ファームウェアの選択画面が表示されます。

変更 基準周波数調整機能

セットモードの「基準周波数調整」と「基準周波数調整(FINE)」が、小数第一位まで表示されるようになりました。

仕様変更のお知らせ

IC-9700/IC-9700S Version 1.10

仕様変更に伴い、下記のように本製品の機能が変更になりました。

変更 セットモード

セットモードに下記の項目が追加されました。

MENU >> **SET > 機能設定**

ホームCHビープ (初期設定：ON)

ホームCHを表示したときに、ビープ音を鳴らす機能です。VFOモード、メモリーモードでは、ホームCHとして登録した周波数、またはM-CHが選択されるとビープ音が鳴ります。DR画面では、FROM設定時にホームCHとして登録したアクセスレピータが選択されるとビープ音が鳴ります。

- OFF : ホームCHビープ音を鳴らさない
- ON : ホームCHビープ音を鳴らす

MENU >> **SET > SDカード**

設定セーブバージョン (初期設定：現行バージョン)

SDカードに保存する設定データのバージョン形式を設定します。

- 現行バージョン
: 設定データを現行のファームウェアバージョン形式で保存する
- 旧バージョン(X.XX - X.XX)
: 括弧内に表示されているファームウェアバージョン形式で保存する

※ 旧バージョン形式で保存したときは、新しいファームウェアバージョンで追加された設定は保存されません。

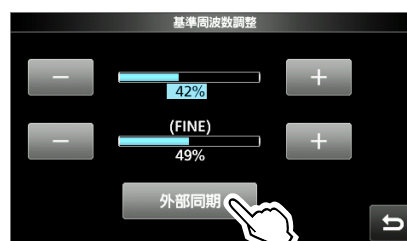
※ 現行バージョン形式で保存された設定データは、旧ファームウェアバージョンのIC-9700で読み込むことはできません。

変更 基準周波数調整機能

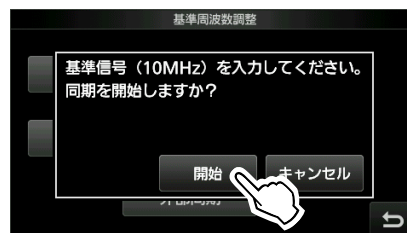
基準周波数調整画面の[自動調整]が、[外部同期]に変更になりました。

外部同期中は、外部から入力した基準信号(10MHz)を使って、基準周波数が常に自動調整されます。

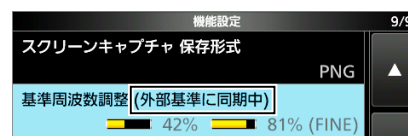
1. [REF IN 10MHz]コネクタに10MHzの基準信号を入力します。
2. 基準周波数調整画面を表示させます。
MENU >> **SET > 機能設定 > 基準周波数調整**
3. [外部同期]をタッチします。



4. [開始]をタッチします。



- 同期が完了すると、「同期しました。」が表示されます。
- 外部同期中は、項目名に「(外部基準に同期中)」が表示され、手動で基準周波数の調整ができなくなります。



- ※ 外部同期中に無線機の電源を入れなおしても、外部同期は解除されません。

外部同期を解除する場合は、手順3で[同期解除]をタッチしてください。

ご注意

電源を入れた直後や送信開始時など温度変化が大きいときは、同期に時間がかかる場合があります。

追加 ホームCHビープ機能

特定の周波数やメモリーチャンネル、アクセスレピータに切り替わったときに、ビープ音を鳴らす機能です。

VFOモード、メモリーモード、DR画面ごとに登録できます。

※ VFOモード、メモリーモードのホームCHは、運用バンドごとに設定できます。

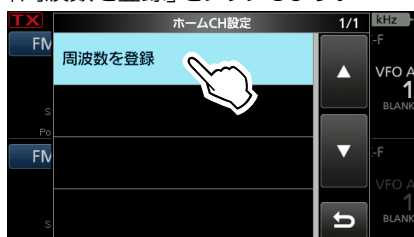
◇ホームCHを登録する

例：VFOモードの場合

- 登録したい周波数を選択します。
※ DR画面で設定する場合は、「FROM」を選択している状態にしてください。
- QUICK** を押します。
- 「ホームCH設定」をタッチします。



- 「周波数を登録」をタッチします。



※ メモリーモードの場合は「チャンネルを登録」、DR画面の場合は「レピータを登録」をタッチしてください。

ご参考

ホームCHの登録を解除するときは、上記の手順4で「クリア」をタッチします。



◇ホームCHビープ機能の使いかた

ホームCHに登録した周波数やメモリーチャンネル、特定のアクセスレピータに切り替わると、「ブツ」とビープ音が鳴ります。

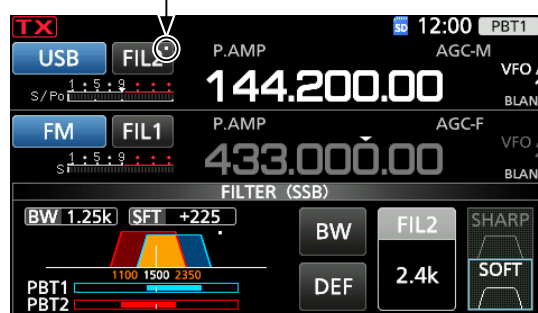
※ ビープ音を鳴らないように変更できます。

MENU >> **SET > 機能設定 > ホームCHビープ**

変更 デジタルTWIN PBT機能の状態表示

デジタルTWIN PBT機能を使用して通過帯域幅を変更したときに、フィルターアイコンに「・」が表示されるようになりました。

通過帯域幅変更時の表示



変更 [SCAN]の動作

スキャン選択画面で、**SCAN**を短く押したときの動作が変更になりました。

変更前：スキャン選択画面を閉じます。

変更後：選択されたスキャンを開始します。

追加 UDPホールパンチ機能

内蔵ゲートウェイ設定に「UDPホールパンチ」が追加されました。

「ON」に設定すると、ルーターのポート開放ができない場合でも、内蔵ゲートウェイ機能を使用してほかの局を呼び出したときに相手局からの応答を受信できます。

※ 海外レピータを使用している局からの応答は受信できません。

※ ご使用のネットワーク環境によっては受信できない場合があります。

MENU >> **DV GW > 内蔵ゲートウェイ設定**

UDPホールパンチ

(初期設定：OFF)

接続するルーターのポート開放ができない場合でも、他局を呼び出せる機能を設定します。

※ 他局からの呼び出しを待ち受けることはできません。

※ 「ON」に設定しても、UDPホールパンチ非対応のバージョンでDVゲートウェイ機能を使用している局からの応答は受信できません。

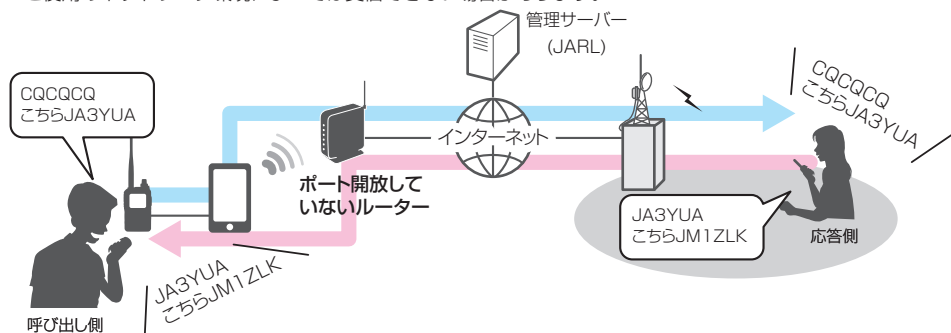
※ 接続するルーターの40000番ポートが開放されている場合は、「OFF」(初期値)のままご使用ください。

UDPホールパンチ対応について

公衆無線LANサービス利用時など、ルーターのポート開放ができない場合や、ご使用になる端末にグローバルIPアドレスが割り当てられていない場合でも、アクセスポイントモードやターミナルモードでほかの局を呼び出したときに相手局からの応答を受信できるようになりました。

※ 海外レピータを使用している局からの応答は受信できません。

※ ご使用のネットワーク環境によっては受信できない場合があります。



※ RS-MS3W/RS-MS3A、IC-9700(内蔵ゲートウェイ機能をご使用の場合)で「UDPホールパンチ」を「ON」に設定してください。接続するルーターの40000番ポートを開放している場合や、ご使用になる端末にグローバルIPアドレスが割り当てられている場合は、「OFF」のままご使用ください。

※ 相手局との通信が終了してから3分*以内は、相手局からの信号を受信できます。

それ以降は、再度相手局の呼び出しが必要です。

★ ルーターによって、3分未満で相手局からの信号を受信できなくなる場合があります。

ご注意

◎ 下記のバージョン以降に限ります。

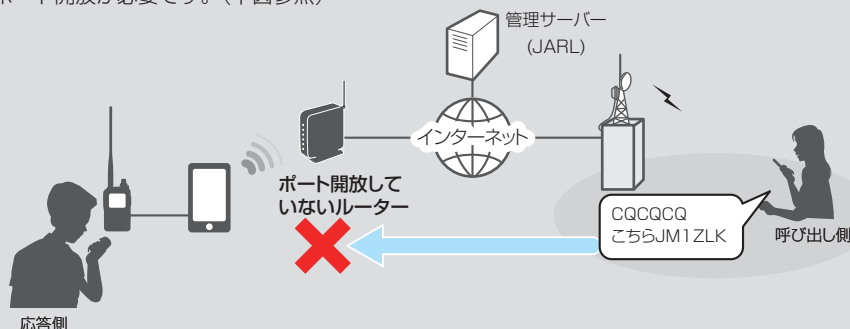
RS-MS3W：バージョン1.30、RS-MS3A：バージョン1.30

IC-9700：バージョン1.10(内蔵ゲートウェイ機能をご使用になる場合)

◎ 下記の場合、相手局からの応答を受信するにはルーターの40000番ポートの開放、または端末にグローバルIPアドレスの割り当てが必要です。

- 以前のバージョンのソフトウェア、ファームウェアを使用している。
- 応答側が、以前のバージョンのソフトウェア、ファームウェアでDVゲートウェイ機能を使用している。

◎ UDPホールパンチ対応のバージョンをご使用の場合でも、他局からの呼び出しを待ち受けるにはポート開放が必要です。(下図参照)



※DVゲートウェイ機能を使用している局へ送信できない場合、相手局がポート開放しているか、またはグローバルIPアドレスを割り当てられた端末を使用しているかご確認ください。